

町長あいさつ

菊陽町は、昭和30年4月1日に、菊池郡津田村、原水村、および上益城郡白水村の3村が合併し、菊陽町として誕生しました。村名は、「菊池郡の南方に位置し、陽光さんとして輝き、前途の希望は洋々たるものがある」という意味を込め、永遠の発展を願って命名されたものです。

この70年を振り返ると、合併当初1万2,115人だった人口は、現在の4万4千人に至るまで、絶え間ない発展の道のりでした。豊かな水と肥沃な土壌の恵みを受けた農地を活用した農業の振興が進められる中、昭和39年に新産業都市法の指定を受けたことを契機として、工業化と農業の転換が進みました。高速道路や熊本空港の開港など恵まれた立地条件を活かし、計画的な都市基盤整備を進めつつも、農業生産基盤整備など、しっかりと基幹産業である農業を守ってきたことにより、農業・工業・商業そして住環境のバランスの取れた活気あふれる近代都市へと変貌を遂げました。

本町がこのように発展を続けることができるのも、国・県、そして、後藤三雄前町長を始めとする歴代町長、町議会の皆さまなど先人のご功績はもとより、町勢進展のためご尽力をいただきました町民の皆さま一人一人のおかげです。

さて、今日の社会経済情勢は日々大きく変動し、人々の価値観や生活様式の多様化、少子高齢化の進行など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。このような時代にあって、先人たちが築き上げたこの豊かな菊陽町を、確かな形で次の世代へ引き継いでいくことが、今を生きる私たちの責務であると、決意を新たにしているところです。

本町が目指す将来像は、すべての町民の皆さまがこの町で暮らすことに誇りを持ち、未来に希望を抱ける「成長しつづける町。」の実現であります。先人たちの知恵と志を忘れることなく、これからの時代を担う若い世代の力も結集し、町民の皆さまと一体となって、新たな時代のまちづくりを力強く推進して参る所存です。

今後とも、時代の流れに的確に対応しながら、町の発展のため、全力で取り組んで参りますので、皆さまの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



菊陽町長
吉本 孝寿



合併70周年記念町勢要覧

「つなぐ つながる 菊陽」と題し、本町の70年の歴史を年表や写真で振り返りつつ、これからのまちづくりについて示しています。町のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

町ホームページはこちら→



合併70周年記念ロゴマーク

町章をあしらい、菊陽町ならではの人口の増加、成長を右肩上がりのグラフ線で表現しています。

種委員会委員など長年町の発展に尽力された60人を自治功労者として、自治会長、民生委員など地域の振興のため献身的に活動された39人を地域振興功労者として、合わせて99人に町長から表彰状を贈呈しました。続いて本町の70年の歩みを映像で振り返り、町をつくり上げてきた先人に思いをはせました。

最後に本町出身で菊陽町PR大使の落語家、桂竹紋さんによる記念講演が開かれ、会場は大きな笑いに包みこまれました。



- 1 式辞を述べる町長
- 2 町の発展に尽力した99人に表彰状を贈呈
- 3 陸上自衛隊第8音楽隊による圧巻の演奏
- 4 桂竹紋さんによる記念講演

菊陽町合併70周年記念式典

菊陽町は今年で合併70周年を迎えました。記念式典では、これまでの町の歩みを振り返り、先人に感謝するとともに、未来に希望を抱ける「成長しつづける町。」の実現に向けて決意を新たにしました。

菊陽町合併70周年記念式典を10月4日、町図書館ホールで開催しました。本町は、昭和30年に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3村が合併し、菊陽町として誕生して今年で70年を迎えました。式典には、来賓や表彰者など約270人が出席しました。

オープニングセレモニーでは、陸上自衛隊第8音楽隊が演奏を披露し、力強くも華やかな演奏で式典の幕開けを彩りました。

その後、前町長、議会議員、各



詩画「菊陽讃歌」

菊陽町PR大使の大野勝彦さんが合併70周年を記念して制作した詩画「菊陽讃歌」。ふるさとへの思い、そして周囲の人々の優しさと助けへの感謝が表現されています。役場本館ロビーに展示予定です。